



# 那須野与一伝承館通信〈第17回〉

## ○霊竹

今回は那須野与一伝承館が収蔵する資料の中から、霊竹を紹介いたします。

本品は、那須神社に伝わる古神宝で、突然変異によって、一株の根元から地上で二株に分かれて生育した竹です。

現在、二本の霊竹が伝来しており、①長さ140・5センチメートル、直径3・5センチメートルのもの、②長さ83・0センチメートル、直径4・3センチメートルのものが、当館に寄託されています。

霊竹は「二股竹」とも呼ばれ、子孫繁栄の縁起物とされています。千葉県香取市小見川には、次のような伝承が残っています

観音様の大開帳を行う年に、



(左)霊竹①、(右)霊竹②  
(那須神社所蔵/当館寄託)

ある家で二股の筍が生えたので、その筍を掘り起こして観音様に献上しました。翌年、二股の筍が生えましたが、これを惜しんで献上しなかったところ、一人息子が大病にかかってしまいました。その後、観音様に筍を献上すると、息子の病は平癒したといわれています。

那須神社に霊竹が伝わった経緯は明らかではありませんが、おそらく那須氏が子孫繁栄を願い、同社に奉納したものであったのではないかとみられます。

現在、この資料は那須野与一伝承館において展示されています。ぜひご覧ください。

### ■問い合わせ

那須野与一伝承館

TEL (20) 0220

## 彫刻

### 市内で作られた作品とその作者

## 周遊 35

このコーナーは、「那須野が原国際彫刻シンポジウム」で公開制作、設置された作品とその作者を連載で紹介いたします。

この作品は、那須野が原ハーモニーホールの南東側にある芝生の広場に設置されている作品です。

細長く四角い棒状にした粘土を「へ」の字型に曲げたような形をしています。作品の側面を見ても、何本ものまっすぐな線が引いてあり、まるで



### 時間軸 V-7

はら とおる 原 透 日本 2002年

薄い石をいくつも重ねて作った作品であるかのように見ることができます。

作者は次のようにコメントを残しています。「石に力を加えると、石は曲がらずに割れるというのが

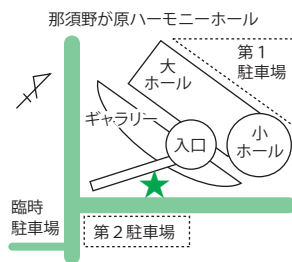
私たちの共通認識です。しかし、隆起をくりかえした断層の岩盤にみられるように、数億年の時間と数百万トンの圧力をかければ、どうも曲がるようです。」どうやら作者は、短時間で曲がるはずのない岩盤や地層といったものをシンポジウムの期間中に曲げようとしたようです。



原 透氏

作者は東京都生れの原透氏。東京造形大学を卒業後、国展にて新海賞、新人賞などを受賞。その後国内のシンポジウムに多数参加し、1998年にはポーランド、1999年にはスロベニアの展覧会に参加して、那須野が原国際彫刻シンポジウムに参加しました。

### 設置場所案内図(★印)



### ■問い合わせ

文化振興課文化振興係 TEL (23) 8718